

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 来友会	代表者	西座 新二	法人・ 事業所 の特徴	くすのきでは、利用者に合わせて柔軟にサービスを組み合わせ、支援を行えるよう心がけています。又住み慣れた場所で生活を送っていただくためにはどうすれば良いかを常に考えています。そして当施設を気軽に利用でき、また利用したいと思ってもらえるよう、利用者が利用したい時にお迎えに行き、帰りたい時に送るようにしています。また季節を感じられるよう外出する機会を増やし利用者同士の交流にも勤めています。
事業所名	小規模多機能ホーム くすのき	管理者	木本 和紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人	1人	1人	1人	1人	3人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様のしたいことが少しでも実現させることができ。利用してよかったと思える施設を目指す。	少人数ずつではあるが買い物やドライブなどレクリエーションで外に出かける機会を増やした。	スタッフで話し合ったことは資料を見れば取り組んでいることが分かったが資料だけではわからないことが多い。	自己評価についてもよくわかっていないスタッフも多く次回はもう少し時間をかけて話し合いに参加する機会を増やす。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き会議の場所を施設内で行えるように調整し雰囲気を見る機会をつくる。	運営推進会議を他の事業所で行うことはできなかった。計画したがコロナやインフルエンザ感染者が出たりしたため。	ご家族など施設に来たことがある方は雰囲気を見て頂けているが運営推進会議参加の方には分からないという意見が多かった。	施設内で運営推進会議を行えるように調整し雰囲気を見る機会をつくる。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の催しも徐々に再開しているのので参加していただけるように調整する。引き続き認知症サポーター交流会に参加し募集を図る。らいゆう祭に地域の方を呼び交流を図る。	認知症サポーターの交流会に参加し来ていただけるよう募集した。らいゆう祭も前年度よりたくさんの方が参加していただいた。	運営推進会議の資料で利用者さんと地域の方が交流できる催しをしていることが分かった。用紙で見るだけではわかりにくい。	引き続き来年度も催しを継続し地域との交流を図れるようにする。認知症サポーターにも参加を呼びかけレクリエーションを充実させる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事やイベントについて調べて参加できそうな行事には事前に準備、計画を立てるようにして	駅前や春日神社などお祭りやイベントを見に行った。少しでも多くの方に参加してもらいたかったが全	前回の改善計画について取り組まれているのは資料を見てわかった。	催しを通じて地域の方とのかかわりの中で話しやすい環境を作り地域の方が心配や相談があったときは聞きやすい

	いく。レクリエーションで催しなどがあれば参加できるようにし地域に出ていける環境を作る。	員は参加してもらうことができなかった。	利用者以外の方にかかわっているか資料だけではわからなかった。	ようホームページなども整備する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で頂いた情報や意見を生かせるよう、職員間での情報共有も速やかに行えるよう工夫する。 また職員も順番に参加できるように調整する。	職員にもいてでも議事録が見れるようにし、議題とは別に毎回1つテーマをミーティングで決め話し合う機会を作った	運営推進会議を活用し改善につなげられる様にしていた。前回の改善計画についても取り組んでいることは資料を見て分かった。	今後とも運営推進会議を通して事業所の取り組みや改善点を報告・相談する。
F. 事業所の防災・災害対策	防災、災害対策訓練の研修や訓練を実施し運営推進会議を通し、防災訓練・災害訓練の様子を報告する。	事業所の現状を、運営推進会議を通して定期的に知っていただく。防災会には参加している。 災害時の地域の方を受け入れる体制は整っていて緊急避難所になっている。災害時、自家発電機で対応できるようにしている。	地域の防災会に参加し避難訓練にも可能な時は参加している。 運営推進会議を活用し改善につなげられる様にしていた。前回の改善計画についても取り組んでいることは資料を見て分かった。	引き続き行われている地域の防災訓練に、参加出来る様に時間調整し参加させて頂き、また地域の方々にも事業所の防災訓練に参加して頂けるように案内し、地域との連携が取れる様に関係性を深める。